名づけた活動を昨年から始めている。激戦地だっ

た地域への簡易診療所の開設と毎年続ける戦争犠

ジア・太平洋地域で「魂と医療のプログラム」と

アジア医師連絡協議会(AMDA、本部・岡 が、第二次世界大戦で大きな犠牲を払ったア

くのが目的だ。

の信頼をはぐくみ、病気や災害を共に克服してい 牲者の慰霊。戦争の心の傷いえぬ人々との間に直

ラ市の教会で営まれた戦争犠牲者の合同慰霊祭



## 時に一ヘルスポスト」と呼 形式で合同で慰霊する。同

れ営まれた。AMDAの呼 マー、ベトナム、カンボジ 健婦らを置いて維持してい ノ、インドネシアでそれぞ ふ簡易診療所を開設し、 保 一回の慰霊祭は昨年十 フィリピン、ミャン

たフィリピンだが、住民は に多くの住民が犠牲になっ ゲリラ討伐」の名のもと 各地に 易診

施する慰霊祭の準備に追わ へのスタッフが、十月から 一月にかけて九カ国で実 岡山市楢津のAMDA本 鈴木剛史さん(宝む)ら六 が自費で参加した。 など超宗派の僧りょや教師 住職(七四)はフィリピン・マ (広島県大和町) の西亮天 臨済宗妙心寺派棲真寺 祭が祈りをささげ、最後は 向文奏上に続いて現地の司 集まってくれた。

軍の戦没者を、現地の宗教 ィアで訪れる宗教者が、そ 画しています」と鈴木さん。 各地では日本からボランテ で知られるインドのインパ の国の戦争犠牲者と旧日本 ルなど四カ所で新たに計 たびに、かつ 急医療支援の AMDAの竪 波やベトナムの洪水など、 て戦争に巻き パプアニューギニアの津

取り組むのですか なぜ、こうした活動に る。戦争で亡くなった人を の現実の心と向き合ってき MDAの現地スタッフもい た。戦争で家族を失ったA

|波茂AMDA代表(5)に聞く

きいですね。

死者の願いは「忘れてほ

西住職の観音経読経と回 の慰霊祭に赴く。 日本を代表する国際NG

在の健康を支えるプログラ 慰霊し、残された人々の現 ンティア参加をお願いした MDA。現在、三十カ国に ムが必要だ。 O(非政府組織)であるA 一宗教が果たす役割が大 、ようか。 的な開催を目指してゆくと いう。 ーいつまで続けるのでし

「二年目の今年、激戦地

持続で信頼感生まれ アジアでは仏教やイスラしくない」ということだ。 3 期にわたって できるだけ長

活の中に入り込んでおり、 ム教、キリスト教などが生 国際協力には宗教への理

続ける。簡易

本の宗教者は欠かせない。 解が必要。戦争犠牲者の慰 には日本兵の遺骨も残っ なおさらだ。各地 合同慰霊祭では日 助(ODA)を申請し、広 島市や沖縄県などの平和推 GOを支援する政府開発援 るように充実させたい。医 診療所も災害にも対応でき につながる。今後草の根N 信頼感が生まれ、平和構築 が、持続することによって 薬品などの維持費はかかる



真の平和構築のモデルになる」と語る菅波代表 (岡山市楢津のAMDA本部

個人の立場でのボラ

進事業との連携も検討した

(1

滋賀の三県から天台宗、臨 済宗、最上稲荷教、天理教

びかけに応え岡山、広島、

趣旨を理解し、約二百人が ック教会で営まれた合同慰 **墨祭に臨んだ。旧日本軍の** ーラ市の貧困地区のカトリ した」。今年はベトナムで ようだ。素晴らしい体験を に訪れたことは評価された するカトリックの国だけ 誓った。 に、日本から宗教者が慰霊 全員で手をつないで平和を 「宗教心を大切に 療 設所 ポスト運営と慰霊祭の継続 確保など懸案も残るが、将 ず、 は物的な支援にとどまら 援のほか地震や津波、 支部を持ち、 来は約三百カ所でのヘルス などの緊急救援に取り組ん 踏み込むものだ。 できた。新しいプログラム で協力してくれる宗教者の し戦争被害者の心のケアに 資金調達やボランティア アジアの視線を自覚し

毎年秋に実施するのは、 お坊さんが比較的、時間が